

『女庭訓往来』と『^{頭書絵抄}_{和漢女礼式} 女庭訓御所文庫』

—— 漢字使用状態から ——

三 宅 ちぐさ

女子用往来の一つ、各月往返2通合計24通から成る『女庭訓往来』は、板を重ね『女庭訓御所文庫』『女庭訓宝文庫』『女庭訓倭絵抄』『女庭訓和錦抄』『女庭訓宝種』など60種以上の板種を現在に伝えるという。^(注1) そのうちの『女庭訓往来』『^{頭書絵抄}_{和漢女礼式} 女庭訓御所文庫』を比較する機会を得、改版により漢字の使用率が上っていることなどを確認した。

女子用往来における漢字・漢語使用の増加については、永井悦子氏の御論考に詳しい。^(注2) 江戸時代3期、各期5種の資料を対象とし、中期(宝永元<1704>から安永9<1780>)以降増加傾向があること、その要因等々を述べておられる。前期最初の資料として『女庭訓往来』も挙げられている。けれど、筆者・編者等が明らかではないためだろう、中期後半の『^{頭書絵抄}_{和漢女礼式} 女庭訓御所文庫』は取り上げられていない。文章はそのままに改版刊行された場合の調査結果も、当時の実態確認のための補強材料になると考え、一資料に過ぎないがここに報告する。

著述内容は、女性として習得すべき知識・教養・心得等に及び、往返毎の問答形式に編まれたものである。

調査資料とした影印は、次の2種である。

▼『女庭訓往来』 和田宗翁(一華堂)作。窪田やす書。1658~60年(万治頃)刊。京都・丸屋源兵衛板。

『稀観往来物集成』第13巻 石川松太郎監修 小泉吉永編集 大空社 1997(平成9)年2月

小泉吉永氏の解題によると、『女庭訓往来』の初版本と目されるもの。ただし、底本の中巻最終丁一丁は補写であるとのことである。

場合によっては、『往来』と略称する。

▼『^{頭書絵抄}_{和漢女礼式} 女庭訓御所文庫』 1767(明和4)年刊。京都・菊屋七郎兵衛板。

『往来物大系』第91巻 石川松太郎監修 大空社 1994(平成6)年3月

『女庭訓往来』の本文に挿絵や種々の記事を加えたもの。中扉裏の注記によると、最古本と目される早稲田大学図書館所蔵の1717(享保2)年板(大阪・万屋彦太郎ほか2書肆刊)を改刻したものだという。

場合によっては、『文庫』と略称する。

なお、比較対象は、消息文の本文部分のみとし、頭書・注をはじめ、結語・日付・宛名・脇付などは除外する。

一、使用単漢字数と使用率

総文字数

総文字数は、次のように数えた。

・原文通りを原則とし、誤りかと考えられる場合も訂正はしない。

例、『往来』さりぬき (七月往) 注、「さりぬべき」の誤りか。

・繰返し記号は、相当する文字数分とする。

例、よろづ へ 三文字分、人ゞ 一文字分

・拗音も文字数で数える。

例、天りやく(暦) 4文字(三月往)、ぐしゅん 4文字(四月返)、けしやう 4文字(五月返)、
二ちやう(張) 4文字(七月往)、しやうめいこんがう 9文字(九月返)

結果は、下記の通りである。

『往来』 11171文字 注、永井悦子氏によると、11063文字(－108)である。

『文庫』 10326文字

単漢字数

単漢字数は、次のように数えた。

・繰返し記号は、前置の文字として扱う。

・異体の関係にある漢字は、それぞれ別の漢字として扱う。

例、「両」と「兩」・「仏」と「佛」・「館」と「館」など

漢字使用率は、延べ単漢字数を総文字数で除し、百分率で示した。割り切れない場合は、小数点第二位を四捨五入してある。

単漢字の延べ文字数と漢字使用率は、次の通りである。

『往来』 2272文字 20.3% 注、永井悦子氏によると、2231文字(－41) 20.2%である。

『文庫』 3040文字 29.4%

単漢字の異なり文字数は、次の通りである。

『往来』 460文字 注、永井悦子氏によると、451文字(－9)である。

『文庫』 667文字 注、207文字の増加

異なり文字を使用頻度の高いものから順に示すと、次の通りである。両書の一方にのみ用いられている漢字には、★印を付して示した。しかし、『文庫』の場合は223文字と多数に及ぶため、一覧は省略し当該文字のみを使用頻度数別に列挙しておく。

単漢字数の後に記した百分率は、当該使用頻度の字種数が異なり単漢字数に占める割合、累積頻度数の後に記した百分率は、当該度数が延べ単漢字数に占める割合である。

『往来』

使用頻度数	単漢字数	累積頻度数	漢字
294	1	294	候
114	1	408	御
82	1	490 (21.6%)	事
74	1	564	人
52	1	616	申
41	1	657	心
35	1	692 (30.5%)	給
33	3	791	見・女・日
24	1	815	又
23	2	861	此・物
22	1	883 (38.9%)	思

21	2	925	山・也
20	2	965	一・神
19	1	984	大
18	6	1092	下・花・月・上・色・世
17	1	1109	子
16	2	1141 (50.2%)	所・中
15	2	1171	天・夜
14	2	1199	君・身
13	3	1238	五・十・本
12	3	1274	家・三・二
11	6	1340	出・庭・殿・入・仏・民
10	5	1390	過・国・四・文・名
9	4	1426	九・時・秋・田
8	10	1506	義・頃・侍・春・水・折・年・婦・法・来
7	9	1569	何・菊・仰・手・小・代・男・道・礼
6	7	1611	後・香・七・先・八・奉・會
5	11 (2.4%)	1666	粟・井・供・玉・待・風・聞・野・有・葉・理
4	24 (5.2%)	1762	惡・右・★菌〔注、『文庫』では園〕・我・祇・言・詞・清・生・節・川・打・段・竹・貞・
弟・程・同・徳・筆・方・万・夕・藕			
3	38 (8.3%)	1876	意・雲・間・関・★儀・兄・后・行・今・根・咲・作・師・糸・寺・者・酒・重・将・親・
千・惣・草・第・朝・鳥・箱・姫・病・不・夫・母・木・路・老・六・墅・★殘〔注、『文庫』では殘も〕			
2	88 (19.1%)	2052	灵・愛・以・伊・衣・引・陰・疫・縁・王・屋・音・河・火・賀・海・茅・館・久・弓・
空・原・戸・乞・功・向・紅・合・左・朔・算・死・紙・似・慈・次・耳・尺・主・種・柔・宿・祝・順・床・掌(嘗)・松・食・新・吹・是・勢・成・正・請・切・祖・双・相・孫・他・置・仲・張・長・津・内・南・能・白・悲・★比・百・父・武・返・房・望・末・門・猶・容・楊・用・應・★癘〔注、『文庫』では疔)・臺・錢			
1	220 (47.8%)	2272	★侘〔注、『文庫』では詫)・驕・位・★老〔注、『文庫』では一のみ)・稻・羽・雨・瓜・影・押・黄・恩・嫁・科・歌・荷・菓・餓・灰・絵・★階・垣・学・笠・蒲・卷・感・桓・觀・岩・願・幾・機・季・貴・飢・騎・鬼・及・宮・京・鏡・堯・極・琴・近・具・景・計・結・軒・元・午・公・口・巧・皇・黑・魂・佐・沙・座・妻・祭・菜・坂・策・參・士・字・室・篠・柴・舍・射・社・取・守・就・洲・集・緒・書・抄・場・常・条・淨・織・信・深・臣・尋・厨・隨・数・星・聖・西・醒・石・跡・雪・絶・仙・宣・專・撰・泉・曾・倉・装・藏・足・属・袖・其・尊・太・泰・鷹・達・棚・樽・丹・短・端・地・智・茶・忠・頂・沈・珍・通・定・渡・★塘・東・★灯〔注、『文庫』では燈)・筒・藤・難・汝・★匂・如・任・把・波・破・馬・梅・板・費・非・貧・付・富・封・福・分・平・碧・★別・暮・報・朋・盆・味・明・茂・目・尤・紋・藥・柳・由・陽・羅・蘭・律・流・★竜〔注、『文庫』では龍のみ)・龍・旅・両・★涼〔注、『文庫』

では涼のみ）・力・緑・輪・簾・連・呂・露・廊・★箆〔注、『文庫』では籠〕・論・和・佛・★
 兩〔注、『文庫』では両のみ〕・涼・奠・娶・嬪・廣・淺・濱・★瑟・當・孟・眷・竭・臂・茱・
 萸・躰・邊・釵・饌・魄

『往来』でのみ使用されている漢字

使用頻度 4	藺〔注、『文庫』では園〕	計	1文字
使用頻度 3	儀・殘〔注、『文庫』では残も〕	計	2文字
使用頻度 2	比・癘〔注、『文庫』では疴〕	計	2文字
使用頻度 1	侘〔注、『文庫』では詫〕・𪛗〔注、『文庫』では一のみ〕・階・塘・灯〔注、『文庫』では燈〕・勾・別・竜〔注、『文庫』では龍のみ〕・涼〔注、『文庫』では涼のみ〕・箆〔注、『文庫』では籠〕・兩〔注、『文庫』では両のみ〕・瑟	計	12文字 総計 17文字

『文庫』でのみ使用されている漢字

使用頻度 9	度	計	1文字
使用頻度 7	外	計	1文字
使用頻度 6	送・多・面・立	計	4文字
使用頻度 5	共・昔・赤・染・敷	計	5文字
使用頻度 4	古・姑・己・故・若・初・青・息・耻	計	9文字
使用頻度 3	悦・園〔注、『往来』では園〕・祈・居・高・催・災・始・齒・承・消・致・着・様・扱・覽	計	16文字
使用頻度 2	疴〔注、『往来』では癘〕・移・延・器・教・形・敬・隙・硯・雇・厚・庚・貢・殘〔注、『往来』では殘〕・私・至・殊・照・城・盛・誠・猪・堤・都・唐・盜・拌・薄・品・縫・豐・忘・娘・命・靈〔注、『往来』では灵のみ〕・脇・儘・偕・國〔注、『往来』では国〕・對・帛〔注、『往来』では紙のみ〕・掟・盡・萬〔注、『往来』では万〕	計	44文字

使用頻度 1 詫〔注、『往来』では侘〕・逢・易・違・浦・永・詠・怨・煙・艷・苑・遠・桶・化・晦・貝・覺・樂・叶・閑・館〔注、『往来』では館のみ〕・岸・顔・喜・寄・忌・稀・記・起・去・橋・胸・郷・局・曲・筋・句・薰・契・賢・顯・袴・語・好・構・甲・耕・告・恨・歳・細・肴・桜・冊・散・使・姉・指・斯・枝・紫・持・受・修・習・住・述・暑・召・宵・乘・植・森・塵・尽・推・雛・杉・瀬・説・洗・前・漸・贈・造・汰・只・但・築・畜・帝・提・燈〔注、『往来』では灯〕・堂・得・毒・吞・馴・念・濃・婆・背・輩・半・彼・罷・美・富〔注、『往来』では富〕・並・片・毎・尽・満・迷・綿・模・弥・誘・遊・羊・頼・落・裏・里・凌・類・曆・劣・剋・外・奢・寔・變・朶・玠〔注、『往来』では珍〕・發・籠〔注、『往来』では箆〕・棕・續・蠶・詔・證・鬢

計143文字 総計223文字

『往来』の場合、使用頻度 1 の漢字220種が異なり文字数の47.8%を占めている。累積頻度については、使用頻度 3 位までの漢字 3 種「候」「御」「事」で、全使用量の21.6%、上位から28種までで50.2%を占める。

『文庫』の場合は、使用頻度 1 の漢字296種が異なり文字数の44.4%を占め、使用頻度 3 位までの漢字 3 種「候」「御」「事」で、全使用量の17.1%、上位から51種までで50.4%を占めている。

二、振り仮名の施された漢字とその比率

単漢字の場合

振り仮名が施された単漢字数は、次のように数えた。

- ・一文字単位で扱う。したがって、熟字訓が施されている二文字熟語の場合は、2文字となる。

振り仮名のある漢字の比率は、振り仮名のある延べ漢字数を延べ単漢字数で叙し、百分率で示した。割り切れない場合は、小数点第二位を四捨五入してある。

結果は、下記の通りである。

『往来』 966 文字 42.5%

『文庫』 1985 文字 65.3%

なお、全例が振り仮名無しで使用されている漢字は、使用頻度の高いものから用例を添えて記すと以下の通りである。

『往来』 46 文字

漢字	使用頻度	用例
候	294	候ふ
事	82	こと
申	52	申す
給	35	給ふ
見	33	見ゆ等、読み「み」
又	24	また
思	22	思ふ
也	21	也、助動詞として
十	13	十、数量として
頃	8	ころ
侍	8	侍り
仰	7	仰す・仰せ
奉	6	奉る
有	5	有り・有かたし
意	3	用意・随意
今	3	今・今日
千	3	千よ・千くさ・八万四千六百五十四神
木	3	わか木・うへ木・草木
残	3	残る・残り
久	2	久し
次	2	次に
正	2	正月・正路
比	2	ころ
返	2	御返事
猶	2	なほ
用	2	用意
尅	1	尅荷
近	1	近つく
計	1	ばかり

軒	1	のき
菜	1	わか菜
参	1	参る
尋	1	尋ぬ
西	1	西行上人
石	1	たて石
雪	1	雪
其	1	其後
鷹	1	小鷹
付	1	仰せ付く
福	1	貧福
分	1	墅分
尤	1	尤も
両・兩	1	兩種・兩樽
緑	1	緑、色名として
邊	1	野邊

『文庫』 7 文字

漢字	使用頻度	用例
候	298	候ふ
也	12	也、助動詞として
六	3	五十六代・八万四千六百五十四神・六根
好	1	好む
得	1	候得ば、活用語尾として
福	1	貧福
邊	1	野邊

三、振り仮名の種類

各漢字が音読されているか、訓読されているかについて調査し、その比率を出した。

音読或いは訓読漢字の比率は、音読或いは訓読漢字数を振り仮名のある延べ単漢字数で叙し、百分率で示した。

推定による読みを含めた場合の比率は、その数を延べ単漢字数で叙し、百分率で示した。いずれも、割り切れない場には、小数点第二位を四捨五入してある。

結果は、下記の通りである。

『往来』

音読漢字数	465	文字	音読と推定できる漢字数	159文字を含めると	624	文字
音読漢字の比率	48.1%					27.5%
訓読漢字数	501	文字	訓読と推定できる漢字数	1147文字を含めると	1648	文字
訓読漢字の比率	51.9%					72.5%

『文庫』

音読漢字数	652	文字	音読と推定できる漢字数	115文字を含めると	767	文字
音読漢字の比率	32.8%					25.2%
訓読漢字数	1333	文字	訓読と推定できる漢字数	940文字を含めると	2273	文字

訓読漢字の比率 67.2%

74.8%

なお、『文庫』には、音訳語や固有名詞以外の語においても、下記のように真仮名として使用している漢字がある。その使用頻度を、各文字毎（ ）内に記した。用例に、振り仮名がある場合は、便宜上くゝ内に記した。

浦（1分の1）・山（22分の1）	例、御浦山〈うらやま〉しく（弥生 往）
目（9分の5）・出（16分の5）・度（9分の1）	例、目出度〈めでたく〉（梅雨月往）
面（6分の1）・白（4分の1）	例、面白〈おもしろく〉（南呂 往）
度（9分の8） 助動詞	例、いたし度〈たく〉（衣更着返）
敷（5分の4） 形容詞活用語尾	例、はかへ敷〈しき〉（孟春 返）
得（1分の1） 動詞活用語尾	例、候得ば（臘月 返）

四、漢字表記の自立語数とその比率

総自立語数

総自立語数は、次のように数えた。

- ・自立語は、原則として 文節から付属語を除いたものとする。
- ・両書は、同じ文章であるが、36箇所に見られた。しかし、その内 24例が助詞・助動詞の有無に関する問題であり、漢字表記に関わる例は極少ない。自立語の認定に関わる10箇所については、次の例のように、同形とみなして処理した。

例1、『往来』 みつしのたな (正月往)

『文庫』 御厨子棚〈みづし たな〉

共に、「みつし」「たな」2語とする。

例2、『往来』 もし夫〈おつと〉のいふ詞〈ことば〉も (四月返)

『文庫』 もし夫〈おつと〉のいふ こと も

文脈を考慮し、「詞」とする。

漢字表記の延べ自立語数には、仮名や記号を交ぜ用いた語（以下、交書とする）も含めた。その上で、表記別の結果も付記する。

漢字表記語の比率は、漢字表記の延べ自立語数を総自立語数で除し、百分率で示した。割り切れない場合は、小数点第二位を四捨五入してある。

総自立語数は、下記の通りである。

『往来』・『文庫』	延べ自立語数	3441 語
	異なり自立語数	1386 語

漢字表記の延べ自立語数とその比率は、下記の通りである。

注、永井悦子氏によると、漢字表記率の平均は 48.6%、低いもので 33.8%、高いもので 67.8%であるという。

『往来』 1760 語 51.1%

『文庫』 2256 語 65.5%

漢字表記語の場合

『往来』 1192 語（送り仮名のない活用語・副詞などを含む。うち、動詞は 318 語） 34.6%

『文庫』 1670 語（送り仮名のない活用語・副詞などを含む。うち、動詞は 417 語） 48.5%

交書の語の場合

『往来』 568 語（送り仮名のある活用語などを含む。うち、動詞は 267 語） 16.5%

『文庫』 586 語（送り仮名のある活用語などを含む。うち、動詞は 323 語） 17.1%

仮名表記語の場合

『往来』	1681 語	48.9%
『文庫』	1185 語	34.4%

次には、使用頻度上位20位までの自立語（延べ自立語数の 26.7%相当）の表記の状態を記す。
漢字表記数に続けて記した括弧内の数値は、振り仮名の施された語数である。

順位	語	語数	『往来』		『文庫』	
			漢字表記	仮名表記	漢字表記	仮名表記
1	候ふ	286	270	16	270	16
数値は同じだが6例に異同がある。共に、漢字表記語のうちの229例には送り仮名がない。						
2	事	96	69	27	90(6)	6
					漢字表記 21 例増	
3	有り	60	4	56	23(12)	37
					漢字表記 19 例増。	
共に、漢字表記語の全てに送り仮名はない。						
4	人	49	48	1	49(1)	0
					漢字表記 1 例増	
5	申す	47	46	1	46	1
仮名表記の1例は、『往来』には「まうして」、『文庫』には「まうで」とある。「仏に〜とふらひければ」という文脈なので「まうで(詣づ)」とすべきか。						
6	給ふ	40	34	6	38(3)	2
					漢字表記 4 例増。	
『往来』の2例、『文庫』の3例には送り仮名がない。						
7	す〈サ変〉	36	0	36	0	36
共に、全て仮名表記である。						
8	無し	31	0	31	0	31
共に、全て仮名表記である。						
9	言ふ	30	1(1)	29	0	30
					漢字表記 1 例減。	
『往来』の漢字表記語には送り仮名がない。						
10	参らせ候	28	28	0	28	0
『文庫』の「参らせ候」1例以外は全て「まいらせ候」で、送り仮名はない。						
11	思ふ	27	19	8	19(3)	8
数値は同じだが、6例に異同がある。共に、漢字表記語の全てに送り仮名がある。						
12	心	24	24	0	23(6)	1
					漢字表記 1 例減	
	又	24	24	0	24(9)	0

共に、全て漢字表記である。					
14	女	23	22(7)	1	23(1) 0
	其の	23	1	22	漢字表記 1 例増 16(13) 7
					漢字表記 15 例増。
共に、表記は全て「其」である。					
16	物	22	7(1)	15	4(3) 18
					漢字表記 3 例減
17	此の	21	18	3	21(21) 0
					漢字表記 3 例増。
共に、表記は全て「此」である。					
18	成る	20	1(1)	19	11(6) 9
					漢字表記 10 例増。
共に、漢字表記語の全てに送り仮名がない。					
19	是	16	2(1)	14	5(5) 11
					漢字表記 3 例増。
	良し	16	0	16	2(2) 14
					漢字表記 2 例増。表記は 「能」で、送り仮名はない。

五、品詞別漢字表記語とその比率

品詞別漢字表記語は、主な品詞とその種類に限り、交書も含めて数えた。

品詞別漢字使用率は、漢字表記語数を各品詞の語数で除し、百分率で示した。割り切れない場合は、小数点第2位を四捨五入してある。

漢字表記数に続けて記した括弧内の数値は、振り仮名の施された語数である。

結果は、下記の通りであった。

品詞とその種類名	語数	『往来』			『文庫』		
		漢字表記	仮名表記	比率	漢字表記	仮名表記	比率
名詞	1736	1085(573)	651	62.5%	1344(1012)	392	77.4%
（固有名詞	75	55(49)	20	73.3%	65(62)	10	86.7%
代名詞	42	12(6)	30	28.6%	16(16)	25	39.0%
数詞の助数詞部分	41	39(20)	2	95.1%	38(22)	0	100.0%
動詞	1251	577(51)	674	46.1%	723(240)	528	57.8%
形容詞	221	19(6)	202	8.6%	61(52)	160	27.6%
形容動詞	31	8(4)	23	25.8%	17(13)	14	54.8%
副詞	98	21(10)	77	21.4%	38(34)	60	38.8%
接続詞	45	26(0)	19	57.8%	31(16)	14	68.9%

なお、漢字表記の付属語は、それぞれ下記の通りであった。

『往来』	助詞	ばかり	計	助動詞	なり	也
『文庫』	助詞	ばかり	計・ども	共	助動詞	なり
					也・成(1例のみ)・たし	度
						以上

注

注1 『稀観往来物集成』第13巻 監修者 石川松太郎・編集者 小泉吉永 大空社
1997（平成9）年2月24日 解題 451頁

注2 永井悦子氏の御論考

女子用消息型往来における基本的漢字群抽出の試み 計量国語学 24巻2号 計量国語学会 2003（平成15）年9月

近世における女性の漢字使用をめぐる一考察 早稲田大学大学院教育学研究科紀要別冊10-2 2003（平成15）年

近世女子用往来物における使用語彙の特徴 日本語論叢 特別号 日本語論叢の会 2007（平成19）年3月

女子用往来物における漢字使用の実態と傾向 早稲田日本語研究 16 早稲田大学日本語学会 2007（平成19）年3月

女子用往来物における漢語使用について 文学・語学 第187号 全国大学国語国文学会 2007（平成19）年3月 等

注3 『稀観往来物集成』第13巻 監修者 石川松太郎・編集者 小泉吉永 大空社
1997（平成9）年2月24日 解題 449～450頁

（就実大学教授）